茅ヶ崎市自立支援協議会　報告書

件　　名	第１回　こども支援部会
日　　時	令和８年６月１０日（水）　１０時００分～１２時００分
場　　所	茅ヶ崎市青少年会館　３階　教育研修室
事 務 局	相談支援センター　つみき
出 席 者	■齊藤　智彦　（教育センター　青少年教育相談担当：部会長） ■大澤　大輔　（シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社：副部会長） ■小野　達也　（教育センター　青少年教育相談担当） ■青木　亜弥子（児童発達支援センター　つつじ学園） ■石澤　睦　　（児童発達支援センター　うーたん） ■戸祭　高志　（放課後等デイサービス　こあら） ■加藤　美穂　（ちがさき学童保育の会） ■於保　裕希　（神奈川県立茅ケ崎支援学校） ■吉岡　真紀　（児童発達支援センター　うーたん） ■星島　董　　（障がい福祉課） □大隣　葉月　（学校教育指導課） □西村　恵　　（学校教育指導課・スクールソーシャルワーカー ■池元　佑輔　（オブザーバー：障がい福祉課） ■棚橋　利恵　　（部会事務局：相談支援センターつみき） ■檜物　加奈子　（部会事務局：相談支援センターつみき） ■　出席　□欠席
議　　題	１　自己紹介 ２　部会・副部会長選出 ３　前年度までの取り組みについて ４　今年度の取り組みについて ５　グループワーク　①各機関の課題　②どのような連携が必要か ６　その他
検討内容	１　自己紹介 　今年度から参加される委員も多く、現在の所属や担当している主な業務などを説明。 ２　部会長・副部会長選出 　部会長に教育センター齊藤智彦氏、副部会長にシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社大澤大輔氏が選出され、承認された。 ３　前年度までの取り組みについて 　令和６、７年度「就学後の相談のしくみ部会」で取り組んだ内容について説明。幼少期療育につながらなかったお子さんについての就学後の相談で困らな

	いように、相談の仕組みのチャートを作成し、今後配布予定となっている。 4　今年度の取り組みについて 令和９年度から、第８期茅ヶ崎市障がい者保健福祉計画に合わせて、委員の任期が３年となるため、令和８年度は次年度に向けての準備の１年となる。部会の名称も「こども支援部会」として大きな枠組みでこどもの支援について検討していく。まずはそれぞれの立場での課題を抽出し、どのようにしたら解決するのか検討することを目的に、まずはお互いの機関のことを知り、日頃から相談できる関係づくりを目指す。 5　グループワーク ３グループに分かれ、各機関の課題や背景、どのような連携が必要か話し合った。 ① 教育・福祉・医療の連携 福祉と教育の価値観の違い、学校と放課後等デイサービスとの連携、就学前から就学後への引継ぎ、教員の経験継承、対象者情報の共有不足 ② 障がい理解について 障がい特性への理解不足、通常学級で困難を抱える児童、支援学級の充実、保護者の理解・受容、医療相談増加 ③ 保護者支援 保護者の孤立、相談先が分からない、相談につながらない、保護者自身への支援、家庭支援力の低下 ④ 相談支援体制 相談支援の認知不足、相談員不足、計画相談の対応困難、新規相談増加、１８歳以降の相談先不足 ⑤ サービス・社会資源不足 福祉サービスの不足、人材不足、不登校支援施設・居場所不足 ⑥ 医療的ケア児・重度障がい児支援 医療的ケア児受入れ、保護者の付き添い、重度障がいサービス調整、医療知識不足 ⑦ 学校・児童クラブ支援 行動上の課題への対応、家庭内暴力への対応、感覚過敏児への支援、個別配慮の必要性 ⑧ 制度・運営 財源不足、サービス利用調整、運営方針、地域資源不足 各課題の背景として、以下の内容があげられた。 ① 支援を必要とする子どもは増加しているが、地域資源が追い付いていない。 ② こどもの支援だけでなく、家族支援が重要なテーマとなっている。 ③ 地域の相談支援体制が限界に近づいている。

	④ 制度ではなく「顔の見える連携」が十分ではない。 ⑤ 既存のサービスでは地域ニーズに対応できなくなっている。 各グループとも「教育と福祉の連携」の必要性が多くあげられた。今後、困っているこどもを中心とした支援が考えられるように、関係機関がどのようにつながっていくことが望ましいか検討していく。 次回は、小学校の先生を招き、意見交換をする予定。 次回、令和８年８月開催予定。